

名張市社会教育委員提言

「家庭・地域の教育力の向上」の実現のために

令和4年3月

名張市社会教育委員

はじめに

社会教育は、学びを通して個人の成長を図るとともに、他者と学びあい認めあうことで相互のつながりをつくる働きがあります。特に、他者との交流を通じて、新たな気づきや学び、活動への意欲が高まり、より主体的な学びや活動へとつながっていく循環が強みであり、学びあい支えあう地域づくりに大きな役割を果たしてきました。今後、人口減少など社会の大きな変化の中であって、住民の主体的な参画による持続可能な社会づくり、地域づくりに向けて、個人が「学び」、多くの人々が「つどい」、人と人を「むすぶ」ことがさらに重要となってまいります。

名張市教育委員会は、「夢をはぐくみ心豊かでいきいきと輝く『ばりっ子』」を、めざす子ども像として、平成 22 年度に「第一次名張市子ども教育ビジョン」を策定し、子どもの発達に即した一貫した教育・保育の在り方を検討するなど、様々な取組を行ってきました。平成 28 年度には、計画期間を 10 年間とする「第二次名張市子ども教育ビジョン」を策定し、令和 2 年度末までの前期計画では、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を軸に、地域住民など多くの人たちが子どもの育ちにかかわる体制が市内小中学校への学校運営協議会の設置として進められてまいりました。後期計画では、「家庭・地域の教育力の向上」「持続可能な社会の創り手の育成」「子どもの社会への主体的参画」の実現に向けて、子どもの育ちにかかわるあらゆる主体が、「子ども」を中心に「学ぶ」、「つどう」、「むすぶ」役割に基づく生涯学習ネットワークを充実していく必要があります。

私たち社会教育委員は、あらゆる機会・場で社会教育を推進する役割を担うと共に、名張市全体の方向性を示し、取組の検証を行い、次の取組や施策に生かすという役割も合わせ持っています。これまでの社会教育委員会議では、名張市教育ビジョンの内容について研修・確認する機会や、学校運営協議会で幅広く活用されている熟議の手法を使って、目標達成の手立てや条件等について社会教育委員相互の学習機会を設けてまいりました。とりわけ、本年度は、教育委員会のめざす子ども像を確認しつつ、後期計画を推進するうえで必要となる「家庭・地域の教育力の向上」、「持続可能な社会の創り手の育成」「子どもの社会への主体的参画」の三つの視点を、三つの部会に分けて現状や課題の確認を行いました。そして、それぞれの委員の実践や知見をもとに取組方策を検討し、その結果を提言することといたしました。

家庭・地域の教育力の向上

(1) めざす姿

子どもの育ちは、保護者に第一義的責任がある。しかし、子どもは家庭の中だけではなく、学校や地域全体のかかわりの中で成長していく。

昨今では、地縁的なつながりや人との関係が希薄化し、身近な人から子育てについて学ぶ機会が減ったり子育ての悩みなど気軽に相談できる人がそばにいなかったり、子育てを支える環境が大きく変化している。

こうした状況から、家庭とともに地域社会や学校、行政等も力を合わせ、「家庭・地域の教育力の向上」に取り組む必要がある。

そのために、下記をめざす姿とする。

○安心して子どもを産み育てる環境づくり

- ・保護者の子育てに対する不安や悩みに関する相談体制の充実
- ・「家庭における子育ては地域全体で応援していこう」という市民意識の高まり
- ・健やかな育ちをめざす家庭・地域・学校のとつながりの向上

(2) 「家庭・地域の教育力の向上」部会からの提言

①具体的な取り組み

【現状】

- 妊娠・出産・育児の切れ目ない相談・支援等、“産み育てるにやさしいまち名張”をめざして「名張版ネウボラ」をもとに取組を進めている。その取組例として以下のものがある。
 - ・15 地域にある“まちの保健室”の職員をチャイルドパートナーと位置づけ、気軽に立ち寄れる場所で、妊娠期から出産・育児まで伴走型の相談支援を行っている。
 - ・保育所（園）では、未就園児の家庭を含む保護者への子育て相談、なかよし広場の実施、こども支援センターかがやきやマイ保育ステーションを開室している。
 - ・各地域において民生委員・児童委員、主任児童委員、基礎的コミュニティ代表者、ボランティア等の協力によって「地域の広場」を実施している。
 - ・生後1か月から3か月の子どもがいるすべての家庭に主任児童委員等が「こんにちは赤ちゃん訪問」をし、健康や育児に関する相談、「名張市子育てガイド」等の子育て支援に関する情報提供を行っている。
- 高齢・障がい・児童・困窮・教育の各分野で任命された5名のエリアディレクターは、地域づくり組織、まちの保健室、学校と協力し、把握した個別のケースについて、支援や方策を組み立て、エリア会議を通じて関係者（関係機関）の連携調整を行っている。

- 名張市教育センターでは、主な事業として、子どもの育ち・学びへの支援、地域と学校の連携への支援（保護者への支援）等を行っている。
 - ・保護者の子育ての悩みや子どもの育ちを支援する「家庭教育講座」「子育て支援研修会」を実施するとともに、講座の受講者がスタッフとして活動するための研修を行っている。
 - ・保護者や子どもの悩みについて教育よろず相談を実施している。
- 地域と学校が連携し、あいさつ運動や見守り等を実施している。
- 各学校では、調査やアンケートを通じて子どもの実態に応じた指導、改善を図っている。
- コミュニティ・スクールを通じて、家庭・地域・学校が協働して子どもたちの豊かな成長を支えている。

【課題】

- ・名張市やその他機関において子育て支援についての情報発信や周知方法の不足
- ・地域で子育てをするという住民間のつながりが欠けている
- ・関係機関の連携が十分でない
- ・ボランティアスタッフに対する支援体制が不十分である
- ・親子の自己肯定感を高めるなど児童・生徒の実態把握や課題解決に向けた取組が不足している

②実現のための条件づくり

○保護者の役割

- ・子どもの育ちの第一義責任者であることを自覚するとともに、自分一人で子育てをするのではなく、地域の中で子どもを育てるという意識を持つことも大切である。地域や学校との情報共有・あいさつ運動・行事への参加等、日常的な人とのつながりを大切に安心して子育てを行っていただきたい。
- ・子どもの自己肯定感を向上させるためには、保護者自身の自己肯定感を向上させることが必要である。PTA 活動において、懇談会や研修の充実を図られたい。

○学校の役割

- ・子どもの自己肯定感の向上を図るため、児童・生徒の実態を把握し、学校内での成功体験を増やしていく。
- ・各調査やアンケートの結果をもとに、さらに指導・改善を図っていく。
- ・学校と保護者の連携や子どもを通じた保護者間のつながりを図る必要がある。
- ・コミュニティ・スクールの組織を活用し、地域や関係機関と連携する中で、家庭・地域の教育力の向上につなげていく。
- ・地域住民との信頼関係をより深めることにより、地域の行事等にかかる連携がスムーズに行えるようにしていく必要がある。

○地域の役割

- ・保護者が参加しやすい地域行事の計画が必要である。
- ・あいさつ運動や見守り等を継続的に行い、子どもと日常的に交流できる機会を増やすことをめざしていただきたい。
- ・学校や関係機関との連携・協働を図り、個人がこれまでに培われた知識や経験等、生涯の学習で学んだことを生かし、ボランティア活動に積極的に参加いただける体制づくりを進められたい。

○教育委員会の役割

- ・「家庭教育」の重要性を周知するとともに、子育てを支援するためにチラシ等紙媒体とあわせて、なばり子育てLINE・ホームページを活用し、デジタルを使用した周知活動の充実につなげられたい。
- ・地域の広場等での活動を活用するなど、関係機関と一層連携し、家庭教育の重要性を伝えられたい。
- ・子育て支援ボランティアの養成と活動に対する人的支援、あるいは研修事業などを行われたい。
- ・各家庭・地域・学校と連携し、親子で自己肯定感を高めるなど児童・生徒の実態や課題を踏まえた企画を実施されたい。

おわりに

次世代を担う子どもたちが、社会教育による学びを通じて地域の課題やその解決方法をさまざまな世代の住民とともに実践的に学ぶことは、持続可能な地域づくりにつながると考えます。また、子どもたちの参加は他の住民の参加意欲にも好影響を与えるとともに、子どもたちにとっても、若年期に自分自身で課題を設定し取り組むなどの自己学習の習慣や、他者（ひと）とのかかわりの中で相互に学習する視点を身につけておくことは、その後の学習や社会生活において大きな意義を持つものとなります。

提言をまとめる中で、社会教育委員として社会教育の現状を確認するとともに、多様な主体との連携・協働が重要であることを再確認する機会となりました。本提言は、われわれが、学校、地域活動等を実践する中で感じ、考えていることであります。名張市子ども教育ビジョン後期計画は令和3年度からスタートしました。その中で「家庭・地域の教育力の向上」「持続可能な社会の創り手の育成」「子どもの社会への主体的参画」を教育委員会とともにめざし、子どもを核とした「学ぶ」・「つどう」・「むすぶ」という学習や活動の循環が拡大するとともに、生涯学習ネットワークの構築につながっていくよう、発信・実践活動を続けていく所存です。

また、本提言をもとに保護者や地域、名張市教育委員会など関係者が、私たち社会教育委員とともに、課題解決に向けて一層の取組の充実を期待します。

経過

令和3年10月12日（火）

第2回社会教育委員会議の席上、「家庭・地域の教育力の向上」「持続可能な社会の創り手の育成」「子どもの社会への主体的参画」の3つに分かれて条件づくり、具体的な取り組みについて意見の取りまとめを行い、教育委員会へ提言することを確認する。

○「家庭・地域の教育力の向上」

・令和3年11月22日（月）

教育センターにて、意見の取りまとめを行う。

・令和4年1月19日（水）

教育センターにて、提言案の確認を行う。

社会教育委員会議 提言書作成委員

（令和4年3月時点）

	氏名	選出団体・選出理由
委員長	齊藤 健	体育団体代表
副委員長	増岡 孝則	社会教育経験者
	有馬 聖子	PTA代表（名張市PTA連合会）
	生田 茂夫	生涯学習推進協議会代表
	神野 稔	社会教育経験者
	耕野 一仁	文化団体代表（名張文化協会）
	小引 福夫	地域づくり組織代表
	澤田 田鶴子	青少年健全育成経験者
	須曾野 仁志	三重大学教育学部教授
	千邑 淳子	皇學館大学文学部国文学科准教授
	椿原 礼子	家庭教育経験者
	豊岡 千代子	社会教育経験者
	根本 健	校長会代表（桔梗が丘南小学校）
	橋本 香里	家庭教育経験者
	廣岡 茂斉	校長会代表（桔梗が丘小学校）
	若山 東男	企業経営経験者・社会教育貢献者